

1. 授業の目的と概要

本授業では、人口の変化や世代の移り変わりのある経済(non-Ricardian Economy)における経済政策について理論的に学習する。

2. 学習の到達目標

学部レベルのケインズ経済学では、減税や政府からの給付金によって個人の可処分所得を増やせば消費が刺激されることを学習した。しかし、給付金や減税は家計の資産を増加させると同時に、政府の財政赤字を増加させてしまう。財政赤字があると、政府は将来増税する必要があるため（日本でも定額給付金交付の3年後に消費税の増税が予定されている）、それを予想した個人は消費を全く増やさず、政策の効果は皆無であるという考え方もある。これをリカードの中立命題と呼ぶ。

本授業では、人口の変化や世代の移り変わりがあると、将来のことを考える合理的な家計からなる経済においても「リカードの中立命題」が必ずしも成り立たないことを理論的に学ぶ。そのような経済において、金融政策や財政政策の効果や、経済を安定化させるにはどのような政策が望ましいかについて理論的に理解してほしい。また、最新の経済理論の論文を読む力をつけることも目標である。

3. 授業の内容・方法と進度予定

下記テキストに沿って授業を進める。最初の数回はレクチャーを行い、その後は参加者の理解のため各自に報告を求める。

4. 成績評価方法

報告および平常の参加状況による

5. 教科書と参考書

Jean-Pascal Benassy (2007) Money, Interest, and Policy: Dynamic General Equilibrium in a Non-Ricardian World, The MIT Press

6. 予習と復習について

報告担当者は十分な準備が求められる。

7. その他（使用言語、履修の条件、連絡先、オフィスアワー等）

- ・ 言語：講義は日本語、報告は英語・日本語いずれでも可。尚、テキストは最先端の研究について平易な英文で書かれている。
- ・ 履修の条件：中級マクロ経済学を履修済み・同時履修しているか、同様の知識があることが望ましい。
- ・ 連絡先：ホームページ www.econ.jpn.org/horii/ を参照のこと
- ・ オフィスアワー：初回授業時に連絡します

